

◆**単元名**：第6章 国際社会に生きる私たち 2 国際社会が抱える課題

「④なくてはならない食糧と水」(教科書 pp.200-201)

◆**本時の目標**：

世界には生きていくのに必要な食糧や水が確保できず、生存権が脅かされている人々が存在することを理解し、その要因が自然災害や紛争などだけではなく、先進国のライフスタイルにもあることから、自分たちの生活とのつながりに気づき、何をすべきか考察することができる。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●資料①を見て、子どもの状況やどこで起こったことかを想起する。</li> <li>【問】「写真から何がわかるか。どこの国だろう。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「栄養失調」や「アフリカ」などの言葉が早々に出るならば、写真の子どもが置かれている状況や背景についても投げかけたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書〈p.200・①「栄養失調の子ども」〉をスクリーンや電子黒板に映して発問し、答え(タイトル)を確認する。</li> <li>・〈p.200・②「ハンガーマップ」〉で、飢餓の深刻さと地域的な偏りを確認する。</li> </ul>
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>【問】「世界は、食糧不足なのだろうか。」</li> <li>●食糧不足の背景にある人口増加を理解する。</li> <li>【問】「人口増加とハンガーマップは関連するか。」</li> <li>●飢餓の要因を学習し、自然災害や自己責任ではない面も理解する。</li> <li>【問】「十分な食糧があるのに、なぜ飢餓が起こるのだろうか。」</li> <li>●資料を見て考察する。</li> <li>【問】「世界の飢餓問題と、私たちの生活は、関係がないことなのだろうか。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問について、「Yes」と「No」で挙手をさせる。</li> <li>・グラフで人口増加のスピードを追いつつ、その要因を説明する。</li> <li>・人口増加の激しい地域で、飢餓も深刻な事に気づかせる。</li> <li>・本文から、世界には十分な食糧があることを示し、飢餓問題の本質に迫る。</li> <li>・食糧に飢えている人がいる一方で、私たちは頻りに肉を食べ、食品を廃棄していることに気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書〈p.200・④「世界人口」〉をスクリーンに映し、人口増加が激しい地域はどこかを発問し、確認していく。適宜、資料②も映して関連性を考察する。</li> <li>・〈p.200・動画「世界の飢餓」〉を鑑賞する。</li> <li>・デジタル教科書〈p.201 8～9 行め〉をダブルクリックして拡大し、マーカーで囲む。</li> <li>・教員が用意した補足資料；「1 kgの牛肉、豚肉、鶏肉をつくるのに必要な穀物の量」(図)、「ある市で廃棄された未使用の食品」(写真)を、スクリーンに映し出す。</li> </ul>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●改めて、「世界は食糧不足なのだろうか」という問いについて考察する。</li> <li>●水も同様であることを学んだうえで、授業で考えたことをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事実として「Yes」の側面もあるが、「No」の側面(「不足」ではなく「偏り」)もあることに気づかせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書〈p.200・③「飲み水を求める女性や子ども」〉を映し、蛇口をひねれば安全な水が出てくることは世界標準ではないことを説明し、さらにもう一方の側面の紹介として、〈p.201・⑥「日本の仮想水の輸入量」〉を映し出す。</li> </ul>

### ◆指導にあたって：

- この時間では、教員が生徒に知識を教え込んで覚えさせるのではなく、さまざまな資料や情報から生徒自身に何かを気づかせたり、考えさせたりしながら考察を深めさせたい。
- 資料とともに、本文記述もうまく活用したい。いわゆる教科書の重要語句（太字）として示された言葉だけでなく、まとめとして各段落の帰結部分に記述されている文章にも注目し、意識して活用を図っていきたい。そのことによって、重要語句を覚えることだけが学びではないことを、改めて生徒たちに気づかせる機会としたい。

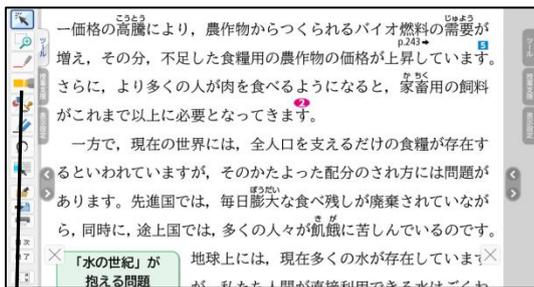
### ◆デジタル教科書活用のねらい：

- 本時のような内容においては、授業の展開に応じて、多種多様な資料をいかに円滑に紹介することができるかが、大切になってくる。テンポアップの望めるデジタル教科書を、ぜひ効果的に活用したい。



デジタル教科書 p.200 左上の「動画アイコン」をクリック。

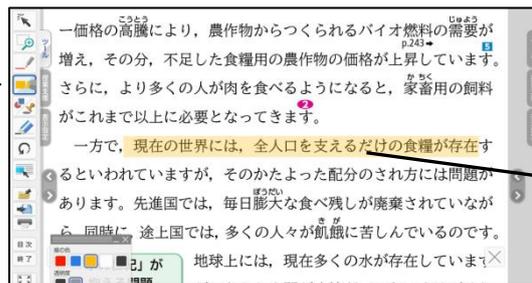
- 再生/一時停止ボタンや、再生位置ボタンを操作して、導入での活動を振り返りながら、適宜解説を加えていく。



デジタル教科書 p.201 の8行目付近をダブルクリックして拡大。

- マーカー部分をクリックして色を選び、範囲を選択するだけで簡単にマーキングができる。

ここをクリック。



強調したい文章を選択するだけでOK。

### ◆授業の改善案・さらに活用するポイント：

- 飢餓の要因として自然災害や紛争をあげると、生徒は飢餓を当該地域の自己責任と捉えやすい。自然災害の背景にある気候変動、紛争で利益を得ている武器産業、穀物価格の高騰の背景にある投機筋の動きなど、先進国の経済活動との結びつきまでを踏まえて、わかりやすく解説できると良いだろう。
- 問題意識を持たせるような授業は、どうしても深刻な雰囲気で終わりやすい。それも生徒にとって大切な経験ではあるが、近年では、バイオエネルギーに対する倫理上の批判が高まり、食用穀物の使用が控えられつつあること、飢餓問題を解決するための国連や NGO の活動など、より良い方向へ向かおうとしている人々の姿を紹介することも、時間があれば行いたい。